

京浜港(東京港、川崎港、横浜港)の港湾計画改訂のポイント

○国際コンテナ戦略港湾政策を推進し、京浜港が一体となって、適切な機能分担を図りつつ、欧州・北米をはじめ多方面・多頻度サービスを充実させるため、以下の計画を位置付ける。

集 貨: 国際フィーダー航路による広域集貨促進のため、全てのコンテナターミナルを「外内貿コンテナ埠頭」に位置付け。

創 貨: 創貨の核となるロジスティクス用地をコンテナターミナル近傍に位置付け。

競争力強化: コンテナ船大型化への対応、能力不足解消に向けたコンテナターミナルの機能強化。

東京港

- 膨大な消費需要
- 東日本への良好なアクセス

首都圏の生活物資輸入等
に対応したアジア・欧米
航路の充実

品川ふ頭 老朽化対策・増深

大井ふ頭 水産ふ頭の機能転換

現状785万TEU

京浜港全体
1,170万TEU

川崎港

- 冷凍冷蔵倉庫が集積
- 多くの開発空間

背後の倉庫集積を
活用し、増加する
アジア貨物に対応

東扇島ふ頭 新規岸壁整備

横浜港

- 深い自然水深
- 産業が多く立地

自然水深を活かし、
欧米航路を更に充実

本牧ふ頭(HB2~3) 既存埠頭の機能転換
本牧ふ頭(HBC1~2) 増深

新本牧ふ頭 新規埋立整備

南本牧ふ頭 岸壁延伸

